

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 1 部門第 2 区分

【発行日】平成30年1月25日(2018.1.25)

【公開番号】特開2015-205122(P2015-205122A)

【公開日】平成27年11月19日(2015.11.19)

【年通号数】公開・登録公報2015-072

【出願番号】特願2014-89050(P2014-89050)

【国際特許分類】

A 6 3 F 7/02 (2006.01)

【F I】

A 6 3 F 7/02 3 3 4

A 6 3 F 7/02 3 2 0

A 6 3 F 7/02 3 0 4 D

【手続補正書】

【提出日】平成29年12月8日(2017.12.8)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

識別情報の可変表示を行い、遊技者にとって有利な特定状態に制御可能な遊技機であって、

遊技の進行を制御する遊技制御手段と、

前記遊技制御手段から送信されるコマンドにもとづいて演出の実行を制御する演出制御手段とを備え、

前記遊技制御手段は、

識別情報の可変表示に関する可変表示関連コマンドおよび所定コマンドを送信するコマンド送信手段と、

識別情報の可変表示の回数が所定回数になるまで遊技者にとって有利な有利状態に制御する状態制御手段とを含み、

前記演出制御手段は、

前記可変表示関連コマンドにもとづいて識別情報の可変表示を実行する可変表示実行手段と、

前記有利状態において、前記可変表示関連コマンドにもとづいて、識別情報の可変表示の回数が前記所定回数になるまでの残余回数を更新する更新手段と、

前記更新手段による更新結果を報知する報知手段とを含み、

前記可変表示実行手段は、

通常状態に制御されているときに、前記可変表示関連コマンドが正常に受信された場合、前記所定コマンドが正常に受信されなくても、識別情報の可変表示を実行する一方、

前記有利状態に制御されているときに、前記可変表示関連コマンドが正常に受信された場合、前記所定コマンドが正常に受信されたことを条件に、識別情報の可変表示を実行し、

前記有利状態に制御されているときに、前記可変表示関連コマンドが正常に受信され、前記所定コマンドが正常に受信されない場合、識別情報を揺動表示し、

前記更新手段は、前記有利状態に制御されているときに、前記可変表示関連コマンドが正常に受信された場合、前記所定コマンドが正常に受信されなくても、前記残余回数を更

新する

ことを特徴とする遊技機。

【手続補正２】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】０００１

【補正方法】変更

【補正の内容】

【０００１】

本発明は、識別情報の可変表示を行い、遊技者にとって有利な特定状態に制御可能な遊技機に関する。

【手続補正３】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】０００９

【補正方法】変更

【補正の内容】

【０００９】

そこで、本発明は、実際の回数と、報知している回数との間に不整合が生じることを抑制できる遊技機を提供することを目的とする。

【手続補正４】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】００１０

【補正方法】変更

【補正の内容】

【００１０】

（手段１）本発明による遊技機は、識別情報（例えば、第１特別図柄または第２特別図柄）の可変表示を行い、遊技者にとって有利な特定状態（例えば、大当り遊技状態）に制御可能な遊技機であって、遊技の進行を制御する遊技制御手段（例えば、遊技制御用マイクロコンピュータ５６０）と、遊技制御手段から送信されるコマンドにもとづいて演出の実行を制御する演出制御手段（例えば、演出制御用マイクロコンピュータ１００）とを備え、遊技制御手段は、識別情報の可変表示に関する可変表示関連コマンド（例えば、変動パターンコマンド）および所定コマンド（例えば、背景指定コマンド、表示結果指定コマンド）を送信するコマンド送信手段（例えば、遊技制御用マイクロコンピュータ５６０におけるステップＳ６０，Ｓ１０２，Ｓ１０７～Ｓ１０９を実行する部分）と、識別情報の可変表示の回数が所定回数（例えば、５０回）になるまで遊技者にとって有利な有利状態（例えば、確変状態）に制御する状態制御手段（例えば、遊技制御用マイクロコンピュータ５６０におけるステップＳ１６７，Ｓ１６８を実行する部分）とを含み、演出制御手段は、可変表示関連コマンドにもとづいて識別情報の可変表示を実行する可変表示実行手段（例えば、演出制御用マイクロコンピュータ１００におけるＳ８０１～Ｓ８０３を実行する部分）と、有利状態において、可変表示関連コマンドにもとづいて、識別情報の可変表示の回数が所定回数になるまでの残余回数（例えば、残余確変回数Ｋ）を更新する更新手段（例えば、演出制御用マイクロコンピュータ１００におけるステップＳ３３０１を実行する部分）と、更新手段による更新結果を報知する報知手段（例えば、演出制御用マイクロコンピュータ１００におけるステップＳ３３０２を実行する部分）とを含み、可変表示実行手段は、通常状態に制御されているときに、可変表示関連コマンドが正常に受信された場合、所定コマンドが正常に受信されなくても、識別情報の可変表示を実行する（例えば、ステップＳ２６０１のＮである場合、表示結果指定コマンドおよび背景指定コマンドを受信したか否かにかかわらずステップＳ８００１～Ｓ８００８を実行する）一方、有利状態に制御されているときに、可変表示関連コマンドが正常に受信された場合、所定コマンドが正常に受信されたことを条件に、識別情報の可変表示を実行し（例えば、ステップＳ２６０１のＹである場合、表示結果指定コマンドおよび背景指定コマンドを受信したこ

とを条件に（ステップS 2 6 0 2のY，S 2 6 0 4のY）ステップS 8 0 0 1～S 8 0 0 8を実行する）、有利状態に制御されているときに、可変表示関連コマンドが正常に受信され、所定コマンドが正常に受信されない場合、識別情報を揺動表示し（例えば、ステップS 2 6 0 1のYであり、表示結果指定コマンドまたは背景指定コマンドを受信していない場合（ステップS 2 6 0 2のN，S 2 6 0 4のN）、ステップS 2 6 0 8を実行する）、更新手段は、有利状態に制御されているときに、可変表示関連コマンドが正常に受信された場合、所定コマンドが正常に受信されなくても、残余回数を更新する（例えば、ステップS 2 6 0 1のYである場合、表示結果指定コマンドおよび背景指定コマンドを受信したか否かにかかわらずステップS 3 0 0 1を実行する）ことを特徴とする。そのような構成によれば、回数の不整合を抑制することができる。また、遊技者に誤解を与えることを抑制することができる。

【手続補正5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 1 1

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正6】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 1 2

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 1 2】

（手段2）手段1において、コマンド送信手段は、電源投入時に残余回数を特定可能な回数特定コマンド（例えば、残余回数指定コマンド）を送信し（例えば、S 4 6を実行する）、報知手段は、回数特定コマンドの後に可変表示関連コマンドが受信されることにもとづいて、残余回数を報知する（例えば、ステップS 6 7 9のYの後の演出図柄変動開始処理において、ステップS 3 0 0 2を実行する）こととしてもよい。そのような構成によれば、残余回数の報知モジュールの共通化を図ることができる。